

資 料

## ローザ・ルクセンブルク邦語文献目録

— 1919～1992 —

丸 山 敬 一 編

私はかつて1921年から79年までのローザ・ルクセンブルクに関する邦語文献を集めて1980年3月発行の本誌第14巻4号にその目録を載せたことがある。その時「はしがき」の中で、今後この目録を一定の期間ごとに——たとえば5年とか10年とかの単位で——補充して一層完全なものに仕上げたいと述べた。しかし、その機会を得ぬまま1991年を迎えた。この年の11月初旬に東京でローザ・ルクセンブルク東京国際シンポジウムが開かれ、その報告集の巻末に彼女に関する「邦語文献目録」が掲載されることになり、私はその作成にあたることになった。その折、長島伸一氏作成の目録（本目録B-I-a-6）や西川正雄、伊藤成彦、松岡利道氏などの御教示をえてここに掲載するような目録を作成することができた。本来これは東京シンポジウム後すぐに発刊される予定だった報告集『ローザ・ルクセンブルクと現代世界』の巻末に載るはずであったが、どうしたわけかこの報告集は3年後の今日にいたるもいまだ公刊の運びになっていないので、14年前の本誌の目録を補充するという形でひとまずここに載せることにした。この目録作成の折にいろいろと御教示いただいた方々に感謝したい。できるかぎり完全を期したつもりであるが、いまなお不備な所もあるかもしれない。御教示いただければ幸いである。

## A ローザ・ルクセンブルク著作邦訳目録

### I 書簡

- 1 『ローザ・ルクセンブルクの手紙』井口孝親訳（同人社，1925）
- 2 『ロザの手紙—ロザ・ルクセンブルクの獄中消息—』堺真柄編  
（『無産者パンフレット』8，1926）
- 3 『ローザ・ルクセンブルクの手紙—カールおよびルイーゼ・カウツキー宛—』ルイーゼ・カウツキー編，松井圭子訳（岩波文庫，1932．〔新版〕川口浩，松井圭子訳，1963）
- 4 『カウツキー夫妻への手紙』浅野正一訳，向坂逸郎序（改造文庫，1934）
- 5 『獄中からの手紙』秋元寿恵夫訳，猪木正道解説（世界文学社，1952）
- 6 『ローザ・ルクセンブルクの手紙—ゾフィー・リープクネヒトへ—』北郷隆五訳，大内兵衛解説（青木文庫，1952）
- 7 「友人への手紙」伊藤成彦編訳 『世界ノンフィクション全集』21（筑摩書房，1961）所収
- 8 『ローザの手紙』孝橋正一訳（婦人民主クラブ，1964）
- 9 『ヨギヘスへの手紙』1～4．フェリクス・ティフ編，伊藤成彦，米川和夫，阪東宏訳（河出書房新社，1976—77）
- 10 『獄中のローザ—マティールデ・ヤーコプへの手紙』シャルロッテ・ベラート編，渡辺文太郎訳（新泉社，1977）
- 11 『獄中からの手紙』秋元寿恵夫訳（岩波文庫，1982）
- 12 『友への手紙』伊藤成彦訳（論創社，1991）

### II 経済理論

- 1 「古典派，俗流，歴史派及マルクス派経済学」久留間鮫造訳『大原社会問題研究所雑誌』1—1，1923
- 2 「資本主義社会に於ける再生産の問題—ローザ・ルクセンブルク

- 『資本累積論』よりの二章一」久留間鮫造訳『大原社会問題研究所パンフレット』12. 1923
- 3 「資本論第二卷及び第三卷」堺利彦訳『マルクス主義』1-1. (希望閣, 1924)
  - 4 『経済学入門』佐野文夫訳 (叢文閣, 1926. のち1933年に岩波文庫に編入, さらに1952年に高山洋吉氏による改訳版として三笠文庫に編入. いずれも原本はPaul Levi版)
  - 5 『資本蓄積論』横田千元訳 (白楊社, 1926)
  - 6 『資本蓄積再論—亜流はマルクス説から何を作り出したか』宗道太訳 (同人社, 1926) 『社会思想全集』14 (平凡社, 1929) に収録
  - 7 『資本蓄積論』益田豊彦, 高山洋吉訳 (同人社, 1927)
  - 8 「経済学史とマルクスの立場」寺尾浄人訳『社会科学』5-2. 1929
  - 9 『資本蓄積論』(再論も含む) 長谷部文雄訳 (岩波文庫, 1934-35. のち本論のみ改訳して1952年に青木文庫に編入)
  - 10 『資本蓄積論』高山洋吉訳 (三笠文庫, 1952)
  - 11 『増補改定 経済学入門』高山洋吉訳 (日月社, 1956. 原本は東独版2巻選集)
  - 12 『ポーランドの産業的發展』肥前栄一訳 (未来社, 1970)
  - 13 『経済学入門』岡崎次郎, 時永淑訳 (岩波文庫, 1978. 原本はディーツ社版5巻全集)

### III 政治理論

- 1 『改良主義論』緒方潔, 沼田光一郎訳 (希望閣, 1927)
- 2 『大衆罷業, 党及び組合』松本悟郎訳 (白楊社, 1927)
- 3 『ローザ政治論集』松山止戈訳 (叢文閣, 1927)
- 4 『マッセンストライク』清水平九郎訳 (弘文堂, 1928)
- 5 「予算の協賛についての社会党の原理とタクティック」大内兵衛

- 訳『大原社会問題研究所雑誌』8-1. 1931 『大内兵衛著作集』  
9 (岩波書店, 1975) 所収
- 6 『ローザ・ルクセンブルク選集』1~4. 野村修, 田窪清秀, 高原  
宏平他訳 (現代思潮社, 1962-63. [新版] 1976)
- 7 「ロシア革命」篠原正瑛訳, 佐藤昇編『社会主義の新展開』(平凡  
社, 1968) 所収
- 8 「暴力と合法性」(「みたびベルギーの実験について」, 『ノイエ・  
ツァイト』1902年5月14日号の第3章の翻訳) 野村修訳, 同氏著  
『暴力と反権力の論理』(せりか書房, 1969) 所収
- 9 『マルクス主義と民族問題』丸山敬一編訳 (福村出版, 1974)
- 10 『第2インターの革命論争』山本統敏編・解説 (紀伊国屋書店,  
1975) 10篇ほどのローザ論文の邦訳を収録
- 11 「ポーランドとロシアの社会主義の相互関係」(1), (2). 佐保  
雅子訳『中京法学』12-2, 13-1. 1977-78
- 12 「『ポーランド問題と社会主義運動』序文」丸山敬一訳『中京法学』  
13-2. 1978
- 13 『民族問題と自治』加藤一夫, 川名隆史訳 (論創社, 1984)
- 14 『ロシア革命論』伊藤成彦, 丸山敬一訳 (論創社, 1985)

## B ローザ・ルクセンブルク研究邦語文献目録

### I 文献目録, 史料解説, 評価変遷史, 研究動向など

#### a 文献目録, 史料解説など

- 1 田村雲供「ローザ・ルクセンブルク文献目録」『社会科学』(同  
志社大学人文科学研究所) 2-1. 1967
- 2 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルク文献目録」パウル・フレー  
リヒ著, 同氏訳『ローザ・ルクセンブルク』(東邦出版社,  
1969) 巻末
- 3 西川正雄「ローザ・ルクセンブルク—史料と文献—」『思想』

559. 1971)

- 4 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルク資料紀行」1～5. 『日本読書新聞』1971年8月9日, 16日, 9月6日, 13日, 20日.
- 5 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルク邦語文献目録—1921～1979末」『中京法学』14-4. 1980
- 6 長島伸一「E. ベルンシュタイン, K. カウツキー, R. ルクセンブルク文献目録」『長野大学紀要』4-1・2. 1982

b 評価変遷史, 研究動向など

- 1 太陽寺順一「ローザ・ルクセンブルク解釈の動向 (学会展望)」『経済評論』1954年4月特大号
- 2 西川正雄「ローザ・ルクセンブルク解釈の流れ」『歴史学研究』239. 1960
- 3 松田秀人「ローザ・ルクセンブルク評価の流れ」『社会主義』201. 1968
- 4 松岡利道「ローザ・ルクセンブルク評価の変遷」『経済学雑誌』63-4. 1970
- 5 伊藤成彦「日本社会主義運動とローザ・ルクセンブルク」『思想』568. 1971
- 6 聴濤弘「『ローザ・ルクセンブルク論』を評す—トロツキストの反革命的意図との関連で—」『前衛』345. 1972
- 7 西川正雄「ローザ・ルクセンブルクとアジェンデーマルクス主義研究国際週間に参加して—」『朝日新聞』1973年10月19日号夕刊
- 8 伊藤成彦「新しい社会主義像への模索—ローザ・ルクセンブルク研究国際会議から—」『思想』594. 1973
- 9 梅田美代子, 阪東宏「ローザ・ルクセンブルク研究をめぐって」『歴史評論』306. 1975
- 10 伊東孝之「最近のローザ・ルクセンブルク研究—ポーランドに

- おける活動を中心として—」『スラブ研究』20. 1975
- 11 神代光朗「二つのローザ・ルクセンブルク論」(1), (2).  
『三田学会雑誌』68-11・12, 69-1. 1975-76
  - 12 伊藤成彦「中国の新しい風—中日ローザ・ルクセンブルク学術  
討論集会に参加して」『状況と主体』1985年6月号
  - 13 丸山敬一「中日学者ローザ・ルクセンブルク学術討論会に出席  
して」『中京法学』20-1. 1985

## II 評伝・追憶など

- 1 山川菊栄「リープクネヒトとルクセンブルグ」『新社会』6-3.  
1919
- 2 山川菊栄「リープクネヒトとルクセンブルグ」『水曜会パンフレッ  
ト』6 (インターナショナル社, 1921)
- 3 井口孝親「独逸革命の犠牲者, ローザ・ルクセンブルク」『我等』  
5-6, 5-7. (同人社, 1923)
- 4 石浜知行「カールとローザの夕 (放浪記)」『社会思想』4-3.  
1924
- 5 山川菊栄『リープクネヒトとルクセンブルグ』(上西書店, 1925)
- 6 千葉雄次郎「二人の革命家 (ドイツ革命夜話)」『社会思想』5-  
7. 1925
- 7 ラデック, カウツキー, レヴィ, アドラア, ドイツ共産党, フェ  
クチオス『ローザ・ルクセンブルク』高村浪夫訳 (弘文堂, 1927)
- 8 正富汪洋「ローザ・ルクセンブルク嬢を懐ふ」現代日本文学全集  
37 『現代日本詩集』(改造社, 1929)
- 9 生田春月「ローザ・ルクセンブルク」現代日本文学全集 37『現  
代日本詩集』(改造社, 1929)
- 10 山川菊栄「女性社会改良家ローザ・ルクセンブルクの人と生涯」  
『婦人公論』1934年12月号
- 11 松井圭子「ローザ・ルクセンブルク—女流革命家の生涯」『思索』

1948年9月号

- 12 坂本徳松『ローザ・ルクセンブルク』（黄土社, 1949）
- 13 野々村一雄「ローザ・ルクセンブルク」『社会科学講座VI—社会問題と社会運動』（弘文堂, 1950）所収
- 14 神近市子「闘いの人生—ローザ・ルクセンブルク」『灯を持てる女人—二十世紀世界婦人評伝』（室町新書101, 1954）
- 15 フレット・エルスナー『ローザ・ルクセンブルク—その生涯と業績—』杉山忠平訳（理論社, 1955）
- 16 吉村励「ローザ・ルクセンブルク」大河内一男他編『社会主義講座3—革命と行動の社会主義』（河出書房, 1956）所収
- 17 平井潔, 古沢友吉『解放史上の三女性—マルクス夫人, ローザ・ルクセンブルク, レーニン夫人』（東洋経済新報社, 1956）
- 18 西川正雄「20世紀のカサンドラ—ローザ・ルクセンブルク小伝」（上）（下）『歴史教育』7—2, 3. 1959
- 19 関恒義「ローザ・ルクセンブルク」『一橋論叢』45—4. 1961
- 20 松岡保「ローザ・ルクセンブルク」松田道雄編『20世紀を動かした人々 13—反逆者の肖像』（講談社, 1963）
- 21 松井圭子「R・ルクセンブルク—嵐の中の不屈の生涯」『潮』

1965年11月号

- 22 パウル・フレーリヒ『ローザ・ルクセンブルク—その思想と生涯』伊藤成彦訳（第一版, 思想社, 1968. 第二版, 東邦出版社, 1969. 改訂増補版, 東邦出版社, 1973. 新装版, 御茶の水書房, 1987）
- 23 平野義太郎「カール・リープクネヒト, ローザ・ルクセンブルク 虐殺五〇周年によせて」『前衛』291. 1969
- 24 エリーザベト・ハノーファー・ドゥリュック, ハイน์リッヒ・ハノーファー編『ローザ・ルクセンブルクの暗殺—ある政治犯罪の記録』小川悟, 植松健郎訳（福村出版, 1973）
- 25 松岡利道「ローザ・ルクセンブルク—その人と思想」杉原四郎他

- 編『セミナー経済学教室』2（日本評論社，1974）
- 26 J・P・ネットル『ローザ・ルクセンブルク』（上）（下），諫山正，川崎賢他訳（河出書房新社，1974—75）
- 27 クララ・ツェトキン他『カールとローザ—ドイツ革命の断章』栗原佑訳（国民文庫，1975）
- 28 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルク」『愛と激動—時代を生きた女たち』（柘植書房，1976）所収
- 29 阪東宏「ポーランド・マルクス主義の第一世代—覚書」『歴史評論』329. 1977
- 30 西川正雄「ローザ・ルクセンブルクの生家と墓」『学内広報』（東大）391. 1977
- 31 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクの紹介者としての山川菊栄」『山川菊栄全集』8 月報（岩波書店，1982）
- 32 伊藤成彦「炎の革命家—ローザ・ルクセンブルク」『歴史をつくる女たち』7. 集英社，1983）
- 33 松俊夫「ローザ・ルクセンブルクのドイツ移住についての覚え書」『成城文芸』106. 1984
- 34 村瀬興雄「ローザ・ルクセンブルク—社会民主党の急進的指導者」『東京新聞』『中日新聞』1985年5月19日サンデー版. 中日新聞社編『世界史の女』4（講談社，1985）所収
- 35 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクの手紙を読む」『聖教新聞』1986年5月10日号
- 36 伊東孝之「ローザ・ルクセンブルク」週刊朝日百科『世界の歴史』118. 1991
- 37 田村雲供「ローザ・ルクセンブルクは甦った」『エコノミスト』1991年12月3日号

### Ⅲ 経済理論研究

- 1 福田徳三「資本増殖の理法と資本主義の崩壊」『改造』1921年10,

11月号

- 2 河上肇「福田博士の『資本増殖の理法』を評す（其の一）」『社会問題研究』31. 1922
- 3 河上肇「福田博士の『資本増殖の理法』を評す（其の二）」『社会問題研究』32. 1922
- 4 河上肇「資本複生産に関するマルクスの表式—福田博士の『資本増殖の理法』を評す—其の三」『社会問題研究』33. 1922
- 5 河上肇「資本主義的生産の必然的行き詰まりの理法—福田博士の『資本増殖の理法』を評す—その四」『社会問題研究』34. 1922
- 6 フィリップス・プライス「『資本蓄積論』に就いて—ローザ・ルクセンブルクと『中央派』—」高橋貞樹訳『マルクス主義』1—3. 1924
- 7 猪俣津南雄「資本主義崩壊の理論的根拠」『改造』8—1. 1926年1月号
- 8 河上肇「労働の生産力の発展と資本蓄積との衝突—ローザ・ルクセンブルクの『資本の蓄積』について—」『社会問題研究』69. 1926
- 9 河上肇「資本蓄積の行き詰まり（前冊の補遺）」『社会問題研究』70. 1926
- 10 エス・デウオイラツキー「ローザ資本蓄積論の批評」鳥海篤助訳『社会科学』3—2. 1927
- 11 オットウ・バウエル「資本の蓄積と帝国主義」向坂逸郎訳『社会科学』3—2. 1927
- 12 ニコライ・ブハーリン『帝国主義と資本の蓄積』友岡久雄訳（同人社, 1927）
- 13 オットウ・バウエル『資本の蓄積と帝国主義』向坂逸郎訳（叢文閣, 1928）
- 14 アントン・パンネケーク「資本の蓄積」向坂逸郎訳 上記オットウ・バウエルの書の付録

- 15 ニコライ・ブハーリン『帝国主義と資本の蓄積』小管省三訳（白楊社, 1930）
- 16 ニコライ・ブハーリン『帝国主義と資本の蓄積』佐山清訳（希望閣, 1930）
- 17 浅野正一「資本蓄積論の一視点—資本論の方法より」『新興科学の旗のもとに』2—12. 1929
- 18 山田盛太郎「再生産過程表式分析序論」『経済学全集』11『資本論体系』〔中〕（改造社, 1931. 1948年に改造社より復刊）
- 19 落合敏也「名著物語—ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』」『経済往来』6—12. 1931
- 20 久留間鮫造「資本の蓄積と固定資本の償却基金—猪俣氏著『帝国主義研究』の中の一論点について—」『大原社会問題研究所雑誌』8—2. 1931
- 21 リュシアン・ローラ『資本蓄積論入門』草ヶ江二郎訳（共生閣, 1932）
- 22 久留間鮫造「高田博士の蓄積理論の一考察」『大原社会問題研究所雑誌』9—2. 1932
- 23 相原茂「資本蓄積論争」『経済評論』1—7. 1946. のち角川書店より単行『蓄積と恐慌』（1949）
- 24 越村信三郎「資本蓄積の理論とその現段階的意義」同氏著『資本蓄積と計画経済』（経済社, 1948）所収
- 25 松井清「ローザ・ルクセンブルクにおける国民経済と世界経済」同氏著『国民経済と世界経済—民族理論との関連において』（アテネ新書18, 弘文堂, 1950）所収
- 26 P・M・スウィージー「11章 崩壊論争—8. ローザ・ルクセンブルク」『資本主義発展の理論』中村金治訳（日本評論社, 1951）. 都留重人訳（新評論, 1967）所収
- 27 岡稔「再生産論をめぐる論争史」講座『資本論の解明』3.（理

- 論社, 1952)
- 28 松尾博「世界経済の概念に関する一試論—ローザ・ルクセンブルクの見解を中心として」『彦根論叢』11. 1952
  - 29 P・M・スウィージー「ローザ・ルクセンブルクと資本主義の理論」都留重人監訳『歴史としての現代』(岩波現代叢書, 1954) 所収
  - 30 相原茂「ローザ・ルクセンブルク」同氏編『経済学説全集』8 (河出書房, 1956)
  - 31 堀新一「恐慌学説批判(その4)—ローザの再生産論」『名城商学』5-3・4. 1956
  - 32 清水嘉治「S・デゥヴォイラッキーの『市場理論』について—ローザ『帝国主義論』批判の再検討のために」『経済系』35. 1957
  - 33 鈴木喜久夫, 吉田震太郎「再生産表式論」向坂逸郎編『マルクスの批判と反批判(マルクス, エンゲルス選集16)』(新潮社, 1958)
  - 34 吉村正晴「ローザ『拡張再生産表式の矛盾』に関する研究—貿易問題への再生産論の適用方法の一吟味」(前編)『九州大学産業労働研究所報別冊』1958. (後編)『経済学研究』23-3・4. 1959
  - 35 熊谷一男「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』(古典案内)」『経済セミナー』24. 1958
  - 36 鈴木喜久夫「再生産表式論におけるルクセンブルグとローゼンベルグ」『社会科学論集』3. 1959
  - 37 海道勝稔「ローザ・ルクセンブルクをめぐる拡大再生産表式についての論争」『富大経済紀要』14. 1959
  - 38 ポール・M・スウィージー「経済学者および革命家としてのローザ・ルクセンブルク」古在由重訳『思想』419. 1959
  - 39 池上淳「ローザ・ルクセンブルクの資本蓄積論と貨幣蓄蔵の理論」『経済論叢』84-5. 1959
  - 40 海道勝稔「拡大再生産表式における資本主義の内在的矛盾と恐慌—ローザ・ルクセンブルク再生産論論争の考察」『富大経済論集』

5 - 4 . 1960

- 41 海道勝稔「拡大再生産表式と帝国主義の『経済的基礎』—ローザ・ルクセンブルク再生産論論争の考察」『富大経済論集』6-2. 1960
- 42 高山満「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』における一問題点—ローザにおける「不均等発展」—「内在的矛盾」（資本制総再生産における）の理解を中心に」『東京経済大学60周年記念論文集』. 1960
- 43 西村達夫「実現の論理とローザ・ルクセンブルク」『東北学院論集—経済学』43. 1963
- 44 有田稔「マルクス理論とローザ理論の間」『経済論集』13-1・2. 1963
- 45 静田均「資本蓄積と拡大再生産表式—ローザ・ルクセンブルクに関する断章—」『オイコノミカ』（名市大）1-1・2. 1964
- 46 海道勝稔「ローザ・ルクセンブルク拡大再生産表式の基本的性格」『土地制度史学』25. 1964
- 47 川鍋正敏「再生産表式論の研究と論争」『資本論講座』3.（青木書店, 1964）
- 48 池上淳「資本主義経済の『適応能力』理論の発生過程—ベルンシュタインとローザの論争によせて」『経済論叢』96-4. 1965
- 49 静田均「拡大再生産表式の問題点—ローザ・ルクセンブルクに関する覚書」『オイコノミカ』2-1・2. 1966
- 50 静田均「資本蓄積と帝国主義—ローザ・ルクセンブルクに関する覚書」『オイコノミカ』3-1・2. 1966
- 51 肥前栄一「(資料) ローザ・ルクセンブルク『ポーランドの産業的発展』」『立教経済学研究』20-2. 1966
- 52 高山満「ローザ・ルクセンブルク—経済学方法論と『資本蓄積論』—ヒルファーディングとの対比において」『経済研究』17-4.

1966

- 53 真木実彦「(資料) ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』に対するレーニンの評注」(上)(下)『商学論集』(福島大) 36-1, 2. 1967
- 54 鶴田満彦「資本蓄積論争—Ⅲ ローザ・ルクセンブルクをめぐる論争」越村信三郎, 石原忠男他編著『資本論の展開—批判・反批判の系譜』(同文館, 1967)
- 55 肥前栄一「ローザ・ルクセンブルクの資本主義観の二, 三の特質について—ドイツ革命との関連からみた試論ノート」内田義彦, 小林昇編『資本主義の思想構造』(岩波書店, 1968) のち同氏著『ドイツ経済政策史序説』(未来社, 1973) 所収
- 56 山口正之「停滞から発展への移行についての一論点—ローザ・ルクセンブルクからミハイル・カレツキーへの継承を中心に」『経済評論』17-1. 1968
- 57 山口正之「ローザ・ルクセンブルクの自動崩壊論批判」『経済』72. 1970
- 58 向山景一「ローザ・ルクセンブルクの蓄積論—現代資本主義把握へ向けての宇野経済学方法論批判」『情況』23. 1970年8月
- 59 星野中「帝国主義と資本制生産の歴史性(一)—ドイツ社会民主党における帝国主義認識の一側面」『経済学雑誌』(大阪市大) 63-4. 1970
- 60 星野中「帝国主義と資本制生産の歴史性—ローザ・ルクセンブルク『社会改良か革命か』を中心に」武田隆夫, 遠藤湘吉, 大内力編『資本論と帝国主義論』下(東大出版会, 1971)
- 61 渡辺昭「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』の提起した問題」『社会科学』(同志社大) 4-2. 1971
- 62 松岡利道「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』研究への一視点—『資本蓄積論』論争をめぐる」『経済学雑誌』65-4. 1971

- 63 静田均「資本蓄積と帝国主義をめぐる論争—O・バウエル対R・ルクセンブルク」(1)(2)『名城商学』21-3, 4. 1972
- 64 星野中「ローザ・ルクセンブルク」鈴木鴻一郎編『マルクス経済学講義』(青林書院新社, 1972)
- 65 小沢光利「恐慌論の一面化過程の分析—第一次大戦前夜の『恐慌=再生産論争』(1896—1913)をめぐる」『経済学研究』(北大) 22-2. 1972 『恐慌論史序説』(梓出版社, 1981) 所収
- 66 渡辺昭「帝国主義論の方法としての『資本の蓄積』—ローザ・ルクセンブルク帝国主義論の根本問題」『経済理論』(和歌山大) 127~131合併号(創立50周年記念特集号) 1972
- 67 降旗節雄「ローザ・ルクセンブルクの資本蓄積論」同氏著『帝国主義論の史的展開』(現代評論社, 1972)
- 68 静田均「帝国主義と資本蓄積—R・ルクセンブルク対N・ブハーリン」(1)(2)『名城商学』22-2, 3. 1972-73
- 69 市原健志「崩壊論争史—『恐慌と崩壊』19世紀末におけるドイツ社会民主党の『崩壊論争』を中心として」『大学院研究年報』(中央大) 2. 1973
- 70 降旗節雄「ローザ・ルクセンブルクの蓄積論」宇野弘蔵監修『講座帝国主義の研究』(青木書店, 1973) 1. 所収
- 71 松岡利道「ローザ・ルクセンブルクの帝国主義論—その生成史的考察」『経済学論集』(竜谷大) 13-4. 1974
- 72 降旗節雄「ローザ・ルクセンブルクの『資本蓄積論』」『マルクス経済学の理論構造』(筑摩書房, 1974)
- 73 レーニン「ローザ・ルクセンブルクの著書『資本蓄積論』へのヴェイ・レーニンの評注」木原正雄訳 レーニン『経済学評注』(大月書店, 1974)
- 74 星川順一「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』の論理構成について」『経済学雑誌』71-1. 1974

- 75 石川勝径「ローザ『資本蓄積論』の—批判—山田氏の批判によせて」『大樟論叢』(大阪経済大・院) 7. 1975
- 76 松岡利道「帝国主義論の学説史的研究—ドイツ社会民主党を中心に」『経済学史学会年報』13. 1975
- 77 嶋田紅衛「『ポーランドの産業的発展』にみられるローザ理論の特徴—ローザ・ルクセンブルク経済理論の研究(1)」『経済学』(東北大) 37-1. 1975
- 78 川合研「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』について—資本蓄積の困難性を中心に」『経済学雑誌』75-1. 1976
- 79 倉田稔「ドイツ社会民主党とストライキ論争—ヒルファディングとローザ」『労働運動史研究』59(労働旬報社, 1976)
- 80 松岡利道「帝国主義と資本蓄積」古沢友吉他編『講座経済学史』4(同文館, 1977)
- 81 渡辺昭「ローザ・ルクセンブルク帝国主義論の方法」入江節次郎, 星野中編著『帝国主義研究』2(御茶の水書房, 1977)
- 82 岡村東洋光「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』についての一考察」『経済学研究』43-1. 1977
- 83 宅和公志「重商主義の一断片—ローザの『外部的市場』をめぐって」『商学集志』(日大) 47-2. 1977
- 84 伊藤武「ローザ・ルクセンブルクと拡大再生産」『大阪経大論集』121・122. 1978
- 85 松岡利道「帝国主義の必然性と戦争の必然性—ローザ・ルクセンブルク『社会民主党の危機』を中心にして」『経済経営論集』(竜谷大) 17-4. 1978
- 86 小野利明「国際主義の物質的基礎はなにか—ローザ・ルクセンブルクの経済理論から学ぶ」『社会評論』(活動家集団 思想運動編集発行) 18. 1978
- 87 嶋田紅衛「ローザ・ルクセンブルク経済理論における国民経済の

- 否定—ローザ・ルクセンブルク経済理論の研究（2）」『経済学』  
41—2. 1979
- 88 松岡利道「ローザ・ルクセンブルクの帝国主義論」羽島卓也，吉  
田静一編『経済学史』（世界書院，1979）
- 89 佐川悠二「ローザ・ルクセンブルク再生産論の基本的性格」『土  
地制度史学』83. 1979
- 90 渡部恒夫「社会政策論とローザ・ルクセンブルクによるベルンシュ  
タイン理論の批判」（1）（2）『鹿児島経大論集』21—1，2. 1980
- 91 いいだ もも「古典案内 ローザ・ルクセンブルク『経済学入門』  
『経済学批判』10. 1981
- 92 長島伸一「ローザ・ルクセンブルクの資本主義観と帝国主義論」  
平林千牧編『経済学説史研究』（時潮社，1982）
- 93 太田仁樹「古典的帝国主義論における世界経済把握—ヒルファディ  
ング，ルクセンブルク，レーニン」（上）（下）『経済科学』32—  
2，3. 1984—85
- 94 三浦道行「恐慌理論史に於けるローザ，ブハーリン，『スターリ  
ン』学派」『紀要』（法大・院）14. 1985
- 95 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルク『資本蓄積論』の歴史的背景  
とその意味—中国，ドイツにおける国際シンポジウムについての  
報告とともに」『社会思想史研究』10. 1986
- 96 松岡利道『ローザ・ルクセンブルク—方法・資本主義・戦争』  
（新評論，1988）
- 97 保住敏彦「カウツキーとルクセンブルクの世界資本主義論」『経  
済論集』（愛大）120・121. 1989
- 98 星野中「崩壊論と帝国主義論：ローザ・ルクセンブルク—帝国主  
義論史・再考（1）」『経済学雑誌』90—5・6. 1990
- 99 富塚良三「拡大再生産の構造と動態〔I〕—ローザ・ルクセンブ  
ルクの見解を手がかりとして」富塚良三，井村喜代子編『資本の

流通・再生産』（『資本論体系』4. 有斐閣, 1990）

- 100 市原健志「マルクス以降の再生産論の展開」富塚良三, 井村喜代子編『資本の流通・再生産』（『資本論体系』4. 有斐閣, 1990）

#### IV 政治理論研究

- 1 河合栄治郎『独逸社会民主党史論』（日本評論社, 1948）
- 2 猪木正道『ドイツ共産党史—西欧共産主義の運命』（弘文堂, 1950. [新版] 有紀書房, 1962）
- 3 吉村励「ドイツ労働運動史の一視角—猪木正道氏による歴史の歪曲」『経済学雑誌』24—4. 1951
- 4 三浦純雄「戦争と内乱—第一次世界大戦とローザ・ルクセンブルク」民主主義科学者協会歴史部会編『世界歴史講座』5（三一書房, 1954）
- 5 シドニー・フック『マルクスとマルクス主義者たち—第7章ローザ・ルクセンブルク』関嘉彦, 河上民雄訳（現代教養文庫145. 社会思想研究会出版部, 1956）
- 6 西川正雄「ローザ・ルクセンブルクとドイツの政治」『史学雑誌』69—2. 1960
- 7 酒井良樹「ローザ・ルクセンブルクと社会主義」『東京大学新聞』1961年5月17日号
- 8 伊藤成彦「“誤ちにつけこむ”ということ—最近のローザ・ルクセンブルクの評価」『図書新聞』607. 1961年6月10日号
- 9 トニー・クリフ『ローザ・ルクセンブルク』浜田泰三訳（現代新書12. 現代思潮社, 1961. [新版] 1975）
- 10 松田秀人「スパルタクス派のプロレタリア党組織論—ローザ・ルクセンブルクの理論を中心として」『政治研究』（九大）10・11. 1963
- 11 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクの人と思想—死後45年の記念

- に」『思想』480. 1964
- 12 アンтониオ・グラムシ「機動戦と陣地戦—ローザ・ルクセンブルク論」石堂清倫, 前野良編訳『現代の君主』(青木文庫, 1964)
  - 13 平井俊彦「ルカーチの『ローザ・ルクセンブルク論』」『甲南経済学論集』5-6. 1965
  - 14 G・ルカーチ『ローザとマルクス主義』平井俊彦訳(ミネルヴァ書房, 1965)
  - 15 松田秀人「東独におけるスパルタクス派評価の方法—『ドイツ労働運動史綱要』の方法を手がかりとして」『法政研究』(九大)31-5・6. 1965
  - 16 柴田高好「『平和革命』論の歴史的系譜—ローザとグラムシ」『思想』494. 1965
  - 17 衣笠哲生「ロシア社会民主党の組織問題をめぐるレーニンとローザ・ルクセンブルク」『社会科学論集』(九大)6. 1966
  - 18 竹本信弘「ポーランド社会主義運動とその思想—若きローザの思想と行動(1)」『経済論叢』98-1. 1966, 同「ローザ・ルクセンブルクのポーランド革命論—若きローザの思想と行動(2)」『同』98-2. 1966
  - 19 伊藤成彦「正しいローザ像のために—柴田高好氏「『平和革命』論の歴史的系譜」批判」『思想』502. 1966
  - 20 早川修二「運動論・組織論をめぐるローザ・ルクセンブルクの思考方法」『現状分析』31. 1966
  - 21 竹本信弘「反帝社会主義の金字塔—『インターナツィオナーレ』誌におけるローザ」『現代の理論』33. 1966
  - 22 柴田高好「革命の弁証法」『思想』516. 1967
  - 23 榎本純「ローザ・ルクセンブルクの視点—〈西方〉革命者の相貌」『現代の理論』49・50. 1968
  - 24 松田秀人「〈自然発生性理論〉の問題とローザ・ルクセンブルク

- 理論の特質—最近の東独におけるスパルタクス派評価への批判として」『政治研究』(九大) 16. 1968
- 25 竹本信弘「ローザ・ルクセンブルクの社会主義運動論」『思想』531. 1968
- 26 竹本信弘「ローザ・ルクセンブルクのマルクス主義方法論—『社会改良か革命か』の1つの論点」『経済論叢』102-4. 1968
- 27 ジェルジ・ルカーチ「マルクス主義者としてのローザ・ルクセンブルク」「ローザ・ルクセンブルクの『ロシア革命批判』についての批判的考察」城塚登, 古田光訳『ルカーチ著作集』9『歴史と階級意識』(白水社, 1968)
- 28 レリオ・バッソ「ローザ・ルクセンブルクの弁証法的方法」上杉聡彦訳 中村丈夫編『社会主義双書—社会主義革命の弁証法』(社会新報社, 1969)
- 29 柏崎千枝子「ポーランドにおける『1905年革命』の展開とポーランド・リトヴァ社会民主党」『歴史学研究』347. 1969
- 30 孝橋正一『ローザ・ルクセンブルク—思想・行動・手紙』(勁草書房, 1969)
- 31 松田秀人「レーニンとローザ・ルクセンブルク—組織問題における対立を中心として」『社会主義』216. 1969
- 32 レリオ・バッソ「ローザ・ルクセンブルクの革命理論—ローザ再解釈の視点」佐藤紘毅訳『現代の理論』74. 1970
- 33 カルルーハイッツ・ヤンセン「ローザ・ルクセンブルクとカール・リープクネヒト—虐殺50周年にさいして」山内孝郎訳『現代の理論』74. 1970
- 34 ハイッツ・アボシュ「ドイツ革命におけるローザ・ルクセンブルク—その歴史の実像」『現代の理論』74. 1970
- 35 レリオ・バッソ「ローザ・ルクセンブルクの復権」佐藤紘毅訳『現代の理論』75. 1970

- 36 諫山正「ローザ・ルクセンブルクの『ロシア革命論』の思想的背景」『唯物史観』8. 1970
- 37 富永幸生「ドイツ共産党創立大会—『大会議事録』を中心に」『現代史研究』24. 1970
- 38 滝田修「ローザ社会主義思想における陥穽—国際主義の質をめぐって」『情況』25. 1970
- 39 レリオ・バッソ『マルクスとローザ』宮川中民, 佐藤紘毅訳 (現代の理論社, 1970)
- 40 酒井角三郎, 滝田修, 清水多吉他『ローザ・ルクセンブルク論集』(情況出版, 1970)
- 41 ゲオルク・クラウス「『ローザ・ルクセンブルクとエンゲルス』—修正主義に対する闘争」上杉重二郎訳『歴史評論』252. 1971
- 42 吉村忠穂「ドイツ共産党の成立に関する一考察 (1918—1920年)」『史学雑誌』81—8. 1972
- 43 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルク—『社会改良か革命か』」石堂清倫, 菊地昌典編『革命思想の名著12選』(学陽書房, 1972)
- 44 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルクと民族問題—トルコ問題を中心として」『法学雑誌』19—2. 1972
- 45 横山憲秀「ポーランド時代のローザ・ルクセンブルク」『歴史研究』(大阪教育大) 10. 1973
- 46 伊東孝之「東欧の民族問題とマルクス主義の民族自決権概念—ローザ・ルクセンブルク」『スラヴ研究』(北大) 18. 1973
- 47 湯浅赳男「『民族問題』におけるローザ」同氏著『民族問題の史的構造』(現代評論社, 1973)
- 48 ミシェル・ロヴィ「ローザ・ルクセンブルクの『自然発生主義』」山内昶訳『若きマルクスの革命理論』(福村出版, 1974)
- 49 伊東孝之「ローザ・ルクセンブルクとロシア革命」『中央公論・歴史と人物』1974年1月号

- 50 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルクとポーランド問題—ローザ民族理論の問題点」『法学雑誌』21-1. 1974
- 51 富永幸生「ローザ・ルクセンブルクのロシア革命論をめぐって」(上)(下)『青山法学論集』16-1, 2. 1974-75. のちに同氏著『独ソ関係の史的分析 1917~1925』(岩波書店, 1979)に収録
- 52 木村真樹男「ローザ・ルクセンブルクと『ポーランド問題』」『早大文学研究科紀要』別冊I. 1975
- 53 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルク—社会民主主義運動論を中心として」岩佐幹三, 山崎時彦編『政治思想・歴史と現代』(法律文化社, 1975)
- 54 大野節夫「民族と階級との関連について—ローザ・ルクセンブルクとレーニン」(1)(2)『経済学論叢』(同志社大)23-3・4, 23-5・6. 1975-76
- 55 岡村東洋光「ローザ・ルクセンブルク研究の一視角—『プロレタリアート』派のポーランド論と若きローザ」『経済論究』(九大)34. 1975
- 56 升味準之助「ソレル・ベルンシュタイン・ルクセンブルク—ユートピアと権力(その2)」『法学会雑誌』(東京都立大)16-1. 1975.
- 57 田沢哲「ローザ・ルクセンブルクと現代」1~4『新地平』(月刊労働者総合誌)1975年10・11月, 1976年2月, 8月, 1977年8月
- 58 ダニエル・ゲラン『革命的な自然発生—ゲランのローザ論』村上公敏訳(風媒社, 1976)
- 59 坪郷実「経営レーテ運動の基礎—第一次世界大戦と大衆内活動家層の形成」1~4.『法学雑誌』24-1, 2, 4, 25-1. 1977-78
- 60 フェリクス・ティフ「ローザ・ルクセンブルクの社会思想の特質」伊藤成彦, 阪東宏訳, 現代史研究会『通信』(現代史研究別冊)4-2. 1977

- 61 加藤一夫「ポーランド王国社会民主党の形成」『西洋史学』108. 1978
- 62 L・バッソ他『ローザ・ルクセンブルク論集』伊藤成彦, 片桐薫, 丸山敬一他訳 (河出書房新社, 1978)
- 63 神代光朗「ドイツ社会民主党のポーランド論争 (1897~1913年) におけるローザ・ルクセンブルクの立場」『三田学会雑誌』71-5. 1978
- 64 荒木勝「初期ローザ・ルクセンブルクのポーランド論にみられる思考の特質」『法政論集』(名大) 78. 1979
- 65 荒木勝「ローザ・ルクセンブルクのポーランド民族自治論に関する一考察」『法政論集』80. 1979
- 66 李宗禹「ローザ・ルクセンブルクの社会主義的民主主義に関する見解について—『ロシア革命論』を読んで」『アジア経済旬報』1178. 1981
- 67 松岡利道「理論と実践の弁証法—初期ルクセンブルクの方法」『経済経営論集』20-4. 1981
- 68 川名隆史「ローザ・ルクセンブルクとポーランド問題—ポーランド自治をめぐる」『国家論研究』20. 1981
- 69 福岡利裕「ドイツ社会民主党における修正主義論争」『西洋史学』122. 1981
- 70 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクとベルンシュタイン—現代に生きる『社会改良か革命か?』」『経済セミナー』別冊『マルクス死後100年』1983
- 71 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクとロシア革命」『ドイツ文化』(中央大) 35・36. 1983
- 72 伊藤成彦「集権と分権の弁証法—レーニンとローザ・ルクセンブルクの党組織論」『社会思想史研究』8. 1984
- 73 丸山敬一「民族自決権をめぐるレーニンとルクセンブルク」『中

京法学』19-4. 1985

- 74 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルクの大衆ストライキ論—抵抗の創造的役割」平井友義, 毛利敏彦, 山口定編『統合と抵抗の政治学』(有斐閣, 1985)
- 75 工藤章男「ローザ・ルクセンブルクの思想的・実践的位相—東方と西方のはざま」『文化学年報』(同志社大) 35. 1986
- 76 吉村忠穂「ローザ・ルクセンブルクとボリシェヴィキ革命」『紀要』(亜細亜大教養) 34. 1986. 同氏著『マルクシズムと国際共産主義の興亡』(刀水書房, 1990) 所収
- 77 小池渺「初期ローザ・ルクセンブルクの社会主義運動論」『経済論集』36-6. 1987
- 78 伊藤成彦「ルクセンブルク・グラムシ・ルカーチの道」『生きているグラムシ』(社会評論社, 1989)
- 79 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルクと民族問題」同氏著『マルクス主義と民族自決権』(信山社, 1989) 所収
- 80 伊藤成彦「ペレストロイカの先駆者—ローザ・ルクセンブルク」『歴史読本ワールド』(新人物往来社) 1991年4月号
- 81 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクとマルクス主義」『状況』1991年9月号
- 82 伊藤成彦『ローザ・ルクセンブルクの世界』(社会評論社, 1991)
- 83 加藤一夫『アポリアとしての民族問題—ローザ・ルクセンブルクとインターナショナリズム』(社会評論社, 1991)

## V 文学論

- 1 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクとハインリヒ・ハイネ—ドイツ社会主義運動のなかの—ハイネ像」井上正蔵記念論文集『ハイネとその時代』(朝日出版社, 1977)
- 2 伊藤成彦「ローザ・ルクセンブルクとトルストイ」『信州白樺』34・35. 1979

## VI 書評・紹介

- 1 櫛田民蔵「ローザ・ルクセンブルクの思い出—『ローザ・ルクセンブルクの手紙』(井口孝親氏訳)を読む」『我等』7—10. 1925のち櫛田民蔵全集第1巻『唯物史観』(改造社, 1947), 朝日選書『社会主義は闇に面するか光に面するか』(1980) 所収
- 2 西雅雄「国民経済か世界経済か—ローザ・ルクセンブルクの『経済学入門』を読む」『マルクス主義』4—4. 1926
- 3 佐多忠隆「資本主義崩壊過程の理論的研究—ローザ・ルクセンブルク著『資本蓄積論』を読む」『帝国大学新聞』1927年1月30日号
- 4 星野高史「マルクス主義のトータルな再把握のために—レリオ・バッソ著『マルクスとローザ』(現代の理論社)」『現代の理論』158. 1977
- 5 伊藤定良「パウル・フレーリヒ, 伊藤成彦訳『ローザ・ルクセンブルク』(思想社, 1968)」『史学雑誌』(新刊紹介) 77—9. 1968
- 6 飯田鼎「パウル・フレーリヒ著, 伊藤成彦訳『ローザ・ルクセンブルク—その思想と生涯』」『三田学会雑誌』62—2. 1969
- 7 伊東孝之「社会主義者の直面する試練—R・ルクセンブルク著丸山敬一訳『マルクス主義と民族問題』」『日本読書新聞』1975年3月24日号
- 8 無署名(紹介)「ローザ・ルクセンブルク著 丸山敬一訳『マルクス主義と民族問題』」『現代の眼』1975年6月号
- 9 高山満「Nettl (J. P.) 『ローザ・ルクセンブルク』 Rosa Luxemburg(Oxford U.P., 2 Vols)」『学燈』63—7. 1966
- 10 竹本信弘「ローザの虚像を破壊する—P・ネトル『ローザ・ルクセンブルク』」『日本読書新聞』1967年3月27日号
- 11 ルドルフ・シュレジンガー「党組織を欠いたマルクス主義—ローザ・ルクセンブルクに関する—考察」高橋洋児訳『マルクス主義』

8. 1970

- 12 松岡利道「書評Nettl,J.P.,Rosa Luxemburg」『季刊社会思想』  
1-2. 1971
- 13 ハンナ・アレント「ローザ・ルクセンブルク—1871—1919」阿部  
齊訳『暗い時代の人々』（河出書房新社, 1972）
- 14 無署名（紹介）「J. P. ネットル著, 諫山正ほか訳『ローザ・ル  
クセンブルク』上・下」『読売新聞』1975年3月3日号朝刊
- 15 高須賀義博「J・P・ネットル著『ローザ・ルクセンブルク』」  
『朝日新聞』1975年3月10日号朝刊
- 16 伊藤成彦「一女性革命家の生の足どり—J・P・ネットル著  
『ローザ・ルクセンブルク』上・下」『読書人』1975年3月24日号
- 17 加藤一夫「ローザ・ルクセンブルクの『ポーランド論』—J・P・  
ネットルの所論によせて」『社会運動史』5. 1975
- 18 伊東孝之「思想の生きた姿を再現—J・P・ネットル『ローザ・  
ルクセンブルク』」『中央公論』1975年4月号
- 19 西川正雄「第一級のローザ伝」『世界』1975年7月号
- 20 松岡利道「階級差別裁判の本質を衝く—『ローザ・ルクセンブル  
クの暗殺』」『日本読書新聞』1974年1月14日号
- 21 江川潤「ローザ・ルクセンブルク著『ヨギヘスへの手紙』I（フェ  
リクス・ティフ編, 伊藤成彦訳, 「ダニエル・ゲラン著『革命的  
自然発生—ゲランのローザ論』村上公敏訳, 風媒社」『情況』1976  
年10・11合併号
- 22 長沼宗昭「ローザ・ルクセンブルク『ヨギヘスへの手紙』」（1）  
（2）『歴史評論』322. 1977
- 23 岸本重陳「いまも咲く大輪のバラ—ローザの書簡集を読んで」  
『朝日新聞』1977年8月22日号朝刊
- 24 野村修「思想と感情と行動の総体」（『ヨギヘスへの手紙』1~4  
巻）『エコノミスト』1977年11月15日号

- 25 丸山敬一「書評 ローザ・ルクセンブルク著, 加藤一夫, 川名隆史訳『民族問題と自治』『中京法学』20-1. 1985
- 26 清水多吉「ドイツ革命を論じる里程表に一ローザ・ルクセンブルク著, 伊藤成彦, 丸山敬一訳『ロシア革命論』『公明新聞』1985年8月12日号
- 27 伊藤成彦「深く帝国主義論追求—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク—方法・資本主義・戦争』『東京新聞』1988年4月25日号
- 28 清水多吉「思考の背景にある時代状況絡ませ紹介—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』『公明新聞』1988年4月25日号
- 29 長島伸一「新資料駆使しローザの現代的課題あぶりだす—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』『読書人』1988年5月9日号
- 30 無署名(日時計)「ローザの思考様式かなり明白に—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』『毎日新聞』1988年5月30日号
- 31 加藤一夫「資本主義批判とその克服の理論のために—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』『季刊クライシス』35. 1988
- 32 丸山敬一「書評 松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』(新評論, 1988年, 407ページ)『経済経営論集』(竜谷大) 28-3. 1988
- 33 三宅立「帝国主義論の『内的展開過程』を綿密に追跡—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』『エコノミスト』66-30. 1988年7月12日号
- 34 田中良明「ローザ・ルクセンブルクの現代的意義について—松岡利道著『ローザ・ルクセンブルク』によせて」『法経論集』(経済経営編I, 愛大) 118・119. 1989
- 35 内田博「最近のマルクス主義左派研究—松岡・田中・太田の著作によせて」(1)『名城商学』40-4. 1991
- 36 太田仁樹「マルクス主義理論史研究の課題—松岡・丸山・田中氏の近著によせて」(1)『岡山大学経済学会雑誌』23-1. 1991
- 37 丸山敬一「ローザの革命理論は有効だったのか—伊藤成彦『ロー

ザ・ルクセンブルクの世界』, 加藤一夫『アポリアとしての民族問題』『エコノミスト』1992年3月17日号

- 38 丸山敬一「ローザ・ルクセンブルクの紙碑」『月刊フォーラム』1992年5月号

VII 映画「ローザ・ルクセンブルク」評

- 1 丸山敬一「映画『ローザ・ルクセンブルク』を観て」『情勢展望』31・32. 1987
- 2 丸山敬一「生き生きした民主主義—ペレストロイカの方角早期に示したローザ・ルクセンブルク」『朝日新聞』1987年12月4日号夕刊
- 3 鍋谷郁太郎「『ローザ・ルクセンブルク』を観て」『歴史評論』454. 1988
- 4 丸山真男, 高野悦子, 西川正雄「〈座談会〉映画『ローザ・ルクセンブルク』をめぐる」『図書』1988年4月号

(1994年5月16日)